タイトル

― サブタイトル ―

（改行1行）

高専　つばさ１＊，コセット　ジョン２＊，専門　みずほ１＊，◯◯◯　◯◯１＊

（改行1行）

Approach to an Effective Extensive Reading:

Based on Model Core Curriculum

（改行1行）

KOSEN Tsubasa, COCET John, SENMON Mizuho, and ◦◦◦◦ ◦◦◦◦

（改行1行）

**Abstract（見出しボールド）**

 The abstract of the paper must be around 100 words in length. The font should be 10.5 point Century. The first line should be indented by 5 characters from the left margin, with all run-over lines right justified.　(文と文の間は、半角1スペースに)

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯.

（改行1行）

**Keywords（見出しボールド）：（全角コロン）　（英単語もしくは句で4つまでとし、語（句）の頭文字を大文字とする。句読点は半角カンマを用い、半角2スペース空けて次のキーワードを記す）例：**

**Keywords：Extensive reading, Corpus-based, Encoding, Collocation**

（改行1行）

**1. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　これは、COCETの論文集『研究論集』の原稿フォーマットを示したものです。

　なお、下の**2.と 2.1.**の場合のように、章のタイトルの直後にこのような文章がない場合は、**1.1.**との間を「改行1行」する必要はありません。

（改行1行）

**1.1. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

本文中の日本語は、MS 明朝の日本語フォント注１）、英語はCenturyの英語フォントを使用し、いずれも10.5 ポイントで用いてください。

（改行1行）

**1.2. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

　本文中のすべての算用数字は、桁数に関わらずCenturyで統一してください。ひとつの方法としては、MSワードの場合、執筆後に一度MS明朝でフォントを統一しその後Centuryにすると、数字のフォントは英語に統一できます。ただし本文中に「①」や「②」などが含まれる場合は文字化けする可能性があるので、十分な注意が必要です。

（改行1行）

**1.3**. ◯◯◯◯◯**（見出しボールド）**

　本文中のすべての句読点、括弧は、全角で「、」「。」「（　　）」のように記載します。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**2. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

**2.1. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**2.2. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**3. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

 表1：タイトル



　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　図1：タイトル

（改行1行）

　図、表は白黒で作成し、文字は十分に大きく、画像は鮮明なものを用いてください。10.5ポイントのMS明朝を用いて、「表1」「図1」（数字はCentury）のようにタイトル番号をつけ、全角のコロンの後、タイトルを簡潔に付してください。図の場合は下部、表の場合は上部にそれらを置き、センタリングしてください。なお写真とグラフは図として扱います。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**4. ◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

ブロック引用する場合は　1）英文の場合は半角10スペース分下げ、和文の場合は全角3スペース分下げる。2）本文と引用部分との間は1行ずつ空けること。続けてブロック引用する場合は、それぞれの引用と引用の間を1行ずつ空けること。

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**5．◯◯◯◯◯（見出しボールド）**

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

１＊（◯◯◯高等専門学校◯◯◯キャンパス）２＊（◯◯◯◯◯◯◯大学）

（改行1行）

**謝辞（見出しボールド）**

　本研究はJSPS科研費 JP◯◯◯◯◯◯◯◯の助成を受けたものである。

（改行1行）

**注（見出しボールド）**

注1）◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

注2）◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯。

（改行1行）

**参考文献（見出しボールド）＊外国語文献、日本語文献の順で列挙する。**

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. In S. Kosen (Ed.), *Teaching Technical English in Japan* (pp.123-134). Whitewell.

Cocet, T., & Kosen, J. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan, 35* (3), 123-134.

Morey, M.C. (2019). Physical Activity and Exercise in Older Adults. UpToDate. Retrieved July 22, 2019, from https://www.uptodate.com/contents/physical-activity-and-exercise/

井上英俊（2022）．「遠隔授業で実施する英単語テストの得点状況と受験者の印象－ケーススタディ－」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第41号，175-184．

久保田佳克・岡﨑久美子・飯田清志・矢澤睦（2019）．「高専生の英語語彙サイズの変化と学習動機－仙台高専本科生の場合－」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第38号，71-80.

篠村恭子・服部真弓（2021）．「高専での英語多読指導におけるオンライン記録媒体多読Moodle導入による指導者意識と指導の変容に関する質的研究」．https://doi.org/10.18983/ caselejournal.51.0\_1

全国高等専門学校英語教育学会（n.d.）．「COCETのあゆみ」http://cocet.org/history.html（最終検索日：2023年9月9日）

宮本友紀・藤田卓郎（2017）．「多言語環境で働く技術者の英語力に関するニーズ分析」．https://karin21.flib.u-fukui.ac.jp/repo/TL10096653

横川博一（2006）．「第10章　語彙と文法はいかに関連しているか」．門田修平・池村大一郎（編）『英語語彙指導ハンドブック』（pp. 259-271）．大修館書店．